

(様式第2号)

議会報告会（意見交換会）実施報告書

令和8年8月14日

都城市議会議長 様

広報広聴委員長 坂元唱子

議会報告会（意見交換会）実施要領の規定（11—イ）により、次のとおり報告します。

開催日時	令和8年7月16日（木）10時50分～12時00分					
開催場所	南九州大学 都城キャンパス					
出席議員	坂元唱子、東裕一、森りえ、郡山徳博、黒木善寿、岸川たかのり、井川真、川崎龍希、中村千佐江、綿屋善明、田下勝利、川内賢幸、長友潤治					
役割分担	班長	—	副班長 司会者	—	記録者	郡山・黒木 岸川・井川
参加人数	南九州大学19名、議員13名					
意見交換会の種類	公民館公募型 ・ 地域テーマ型 ・ ☒ 団体公募型					
団体名	南九州大学 【人間発達学部子ども教育学科】（チームくれよん、チームなないろ） 【環境園芸学部】					
テーマ	南九州大学の学生が取り組む地域課題研究活動について （若者の地域定着、子どもの居場所・不登校支援、地域コミュニティ、都市公園の魅力向上）					
意見交換の概要 （主な意見・質問・要望等）	南九州大学の学生が取り組む地域課題研究活動について説明を受け、若者の地域定着、子どもの居場所・不登校支援、地域コミュニティ、都市公園の魅力向上などをテーマにグループに分かれ意見交換を行った。 【若者の地域定着・地域コミュニティ】 ○ 高城高校との交流を通して、子育てしやすい地域づくりや若者の地域定着について研究している。高校生の約7割が卒業後に地域を離れたい・戻りたくないと考えているとの調査結果が紹介された。 ○ 地域を離れたい理由は、給与水準や希望職種の不足だけでなく、安心して相談できる相手や居場所の不足も大きいとの意見があった。 ○ 小学生から高齢者までが交流できる場や、学校・家庭以外の第三者に気軽に相談できる関係づくりが、地域への愛着形成につながるとの意見が出された。 ○ 高城町には旧後藤家商家交流資料館や東目街道秋祭りなどの地域資源があり、高校生と連携しながら魅力を発信していくことが重要との意見があった。 ○ コロナ禍で祭りや地域行事が減少し、SNSでの交流が増えた一方、人と人との直接的なつながりや会話が薄れたのではないかとの意見もあり、地域行事や人間関係の大切さが確認された。					

	【子どもの居場所・不登校、発達障害等への理解】 ○ 都城市と南九州大学が共同運営する「青空ラボ」では、ボードゲーム、折り紙、農作物の栽培などを通して、不登校児童と大学生とのつながりづくりに取り組んでいる。 ○ 「学校に行こうね」と促すのではなく、子どもが安心して過ごせる楽しい居場所をつくることを重視している。あやめ野中学校での探究活動支援では、子どもの「やりたい」を大切にすることで、会話や関わりが増えるなどの変化が見られるとの報告があった。 ○ 不登校や発達障害の背景には、悩みや行き詰まりを安心して相談できる相手の不足もあるのではないかと意見があった。子どもの自己肯定感を守るため、保護者や地域住民が特性を理解し、一人の人間として受け入れる姿勢が重要との認識が共有された。 ○ 保護者自身も自責感を抱えやすいため、地域で学び、相談できる機会を充実させ、偏見や孤立を防ぐことがインクルーシブな地域づくりにつながるとの意見があった。 【中山間地域の居場所・移動支援】 ○ 高城、山之口、庄内などでは、交通手段や交流場所の不足が課題として挙げられた。夏場の徒歩移動の負担や、身近な公園の撤去・廃止により徒歩圏内の居場所が減っているとの意見があった。 ○ 地域単位で利用しやすい居場所の再整備や、バス・送迎等の移動支援の充実が必要である一方、人材不足により利用希望に十分対応できていない現状も共有された。 【都市公園の魅力向上】 ○ 関之尾公園について、開放感や明るさ、案内表示、樹木の手入れ、アクセス等が課題として挙げられた。コテージ下の空き地の芝生化・オープンスペース化、Park-PFI、滝を活用したアクティビティ、紅葉の植栽、若者を呼び込むPRなどの提案があった。 ○ 木城防災公園について、平常時は地域住民の憩い・交流・健康づくりの場、災害時は避難・防災活動の拠点として活用できることから、防災設備の分かりやすい表示、防災学習や訓練と連動したイベント、子どもや学生が参加しやすい体験型の取組が有効との意見があった。
そ の 他 (今後の課題・感想等)	学生の研究活動を通して、地域課題を若者の視点から捉える貴重な機会となった。特に、施設整備だけではなく「相談できる人」「安心して過ごせる居場所」「世代を超えたつながり」といった人との関係性が、若者の地域定着や不登校支援、地域コミュニティの形成に重要であることが共有された。 今後も南九州大学との連携を継続し、学生の提案や研究成果を地域づくりや議会活動につなげていくことが重要である。また、都市公園については、学生・若者の視点を生かしながら、日常利用、観光、防災など多面的な機能を高める取組について検討していく必要がある。

※「委員会テーマ」型については、実施後の報告は本報告書によらない。(所管事務調査による)